



船舶積み卸し実績、5年連続で過去最高を更新！

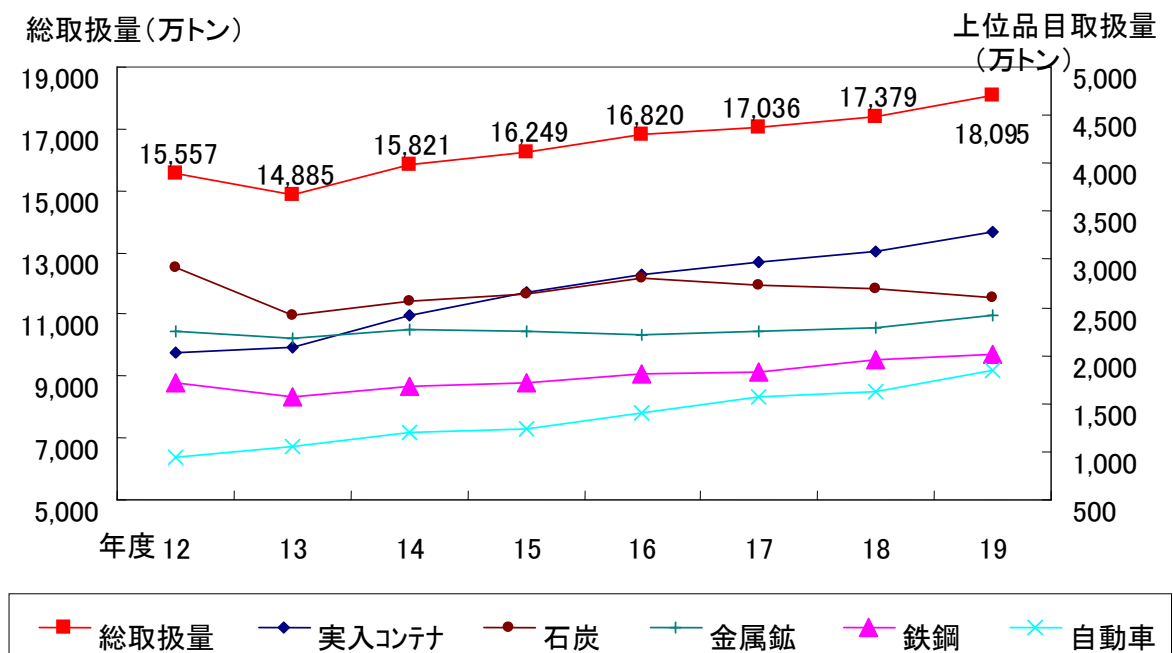
～平成19年度九州運輸局管内23港湾における港湾運送実績の動向～

平成20年 8月 8日
九州運輸局 海事振興部 港運課
担当：平田、鈴
TEL：092-472-3157

平成19年度における九州運輸局管内指定港湾23港の船舶積み卸し実績は、18,095万トンで対前年度比4.1%（716万トン）の増加となり過去最高の取扱数量となった。また、5年連続で過去最高を更新した。

その概要は、次のとおりである。

1. 積み卸し実績の推移

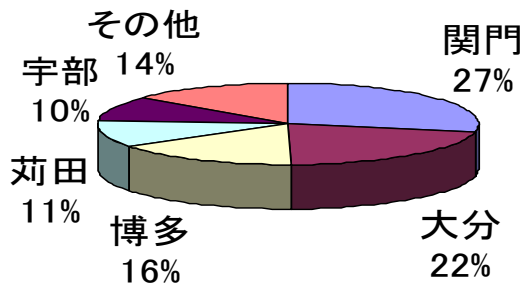


管内の取扱数量は、平成13年度に一旦落ち込んだものの、増加傾向が見られる。

なお、取扱数量の増加の主な要因としては、自動車、実入りコンテナ、鉄鋼等の取扱数量の増加が考えられる。特に実入りコンテナは、平成15年度より取扱数量首位となり、対前年度比4～10パーセントの伸びが見受けられる。



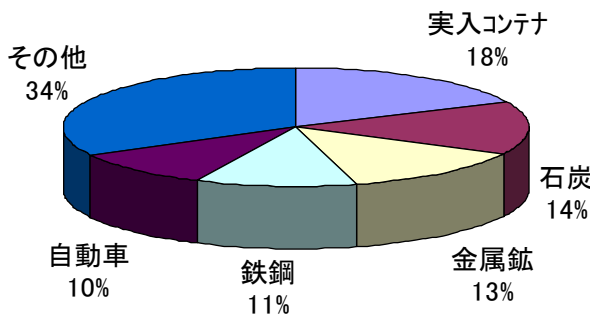
2. 港別取扱数量



取扱数量の多い上位5港で、九州管内の約86%を占めている。上位5港の取扱数量は次のとおり。(対前年度比)

- ①関門港 5,054万トン (△3.9%)
- ②大分港 3,931万トン (3.1%)
- ③博多港 2,905万トン (5.6%)
- ④苅田港 1,952万トン (14.8%)
- ⑤宇部港 1,732万トン (20.6%)

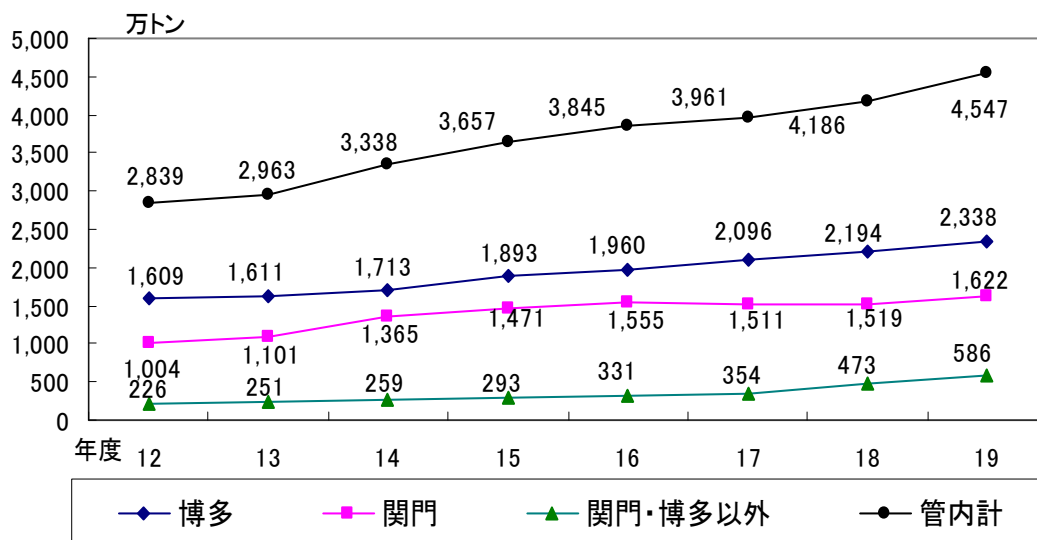
3. 品目別取扱数量



取扱数量の多い上位5品目で、九州管内の約66%を占めている。上位5品目の取扱数量は次のとおり。(対前年度比)

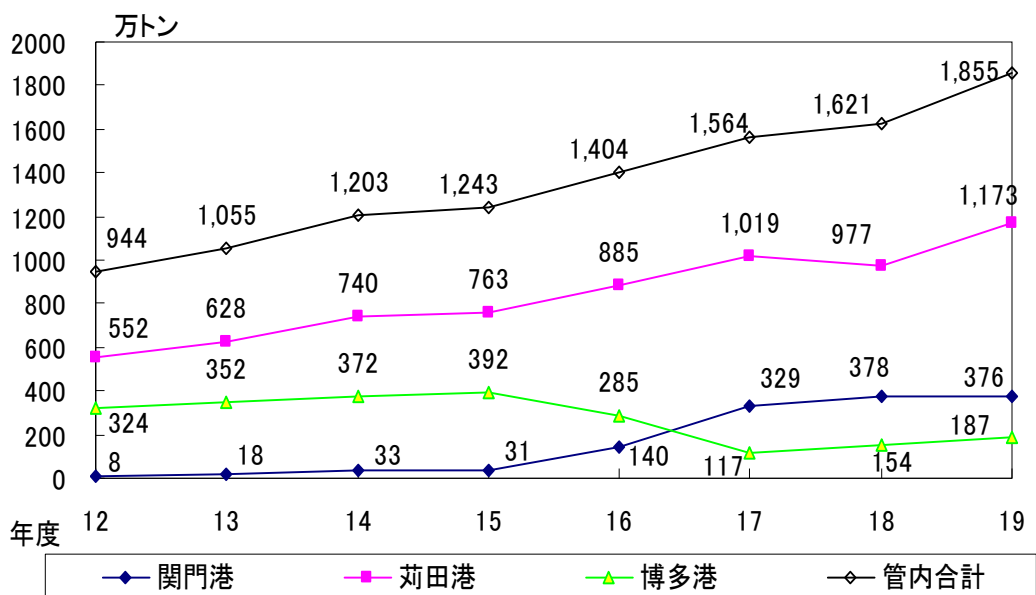
- ①実入りコンテナ 3,286万トン (6.7%)
- ②石炭 2,609万トン (△3.1%)
- ③金属鋳 2,409万トン (4.9%)
- ④鉄鋼 2,019万トン (3.7%)
- ⑤自動車 1,855万トン (14.4%)

①コンテナ取扱数量の推移 (実入りコンテナ・空コンテナ)



管内のコンテナ取扱数量は年々増加している。九州管内では13港が取扱っているが、取扱数量の多い上位2港(博多港・関門港)で九州管内の87%を占めている。増加の要因としては、中国をはじめアジア等の好景気を反映し、家具やゴム製品等の取扱いが増加したことによるものである。

②自動車取扱数量

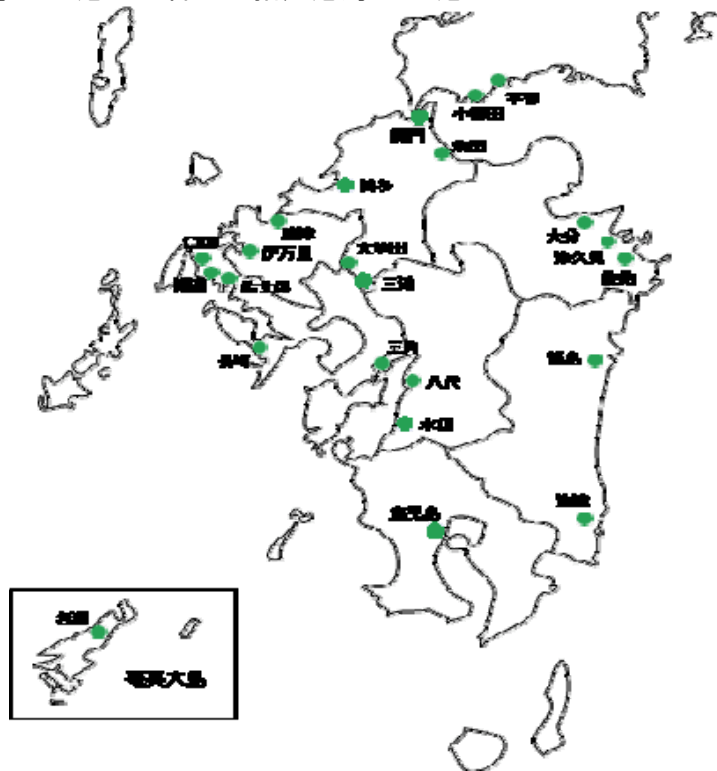


近年、北部九州での自動車関連産業の集積などが進み、管内の自動車取扱数量は年々増加しており、特に苅田港、関門港、博多港の3港での取扱数量は、九州管内の94%を占めている。

4. 九州運輸局管内指定港湾図

全国の指定港湾/93港

管内の指定港湾/23港

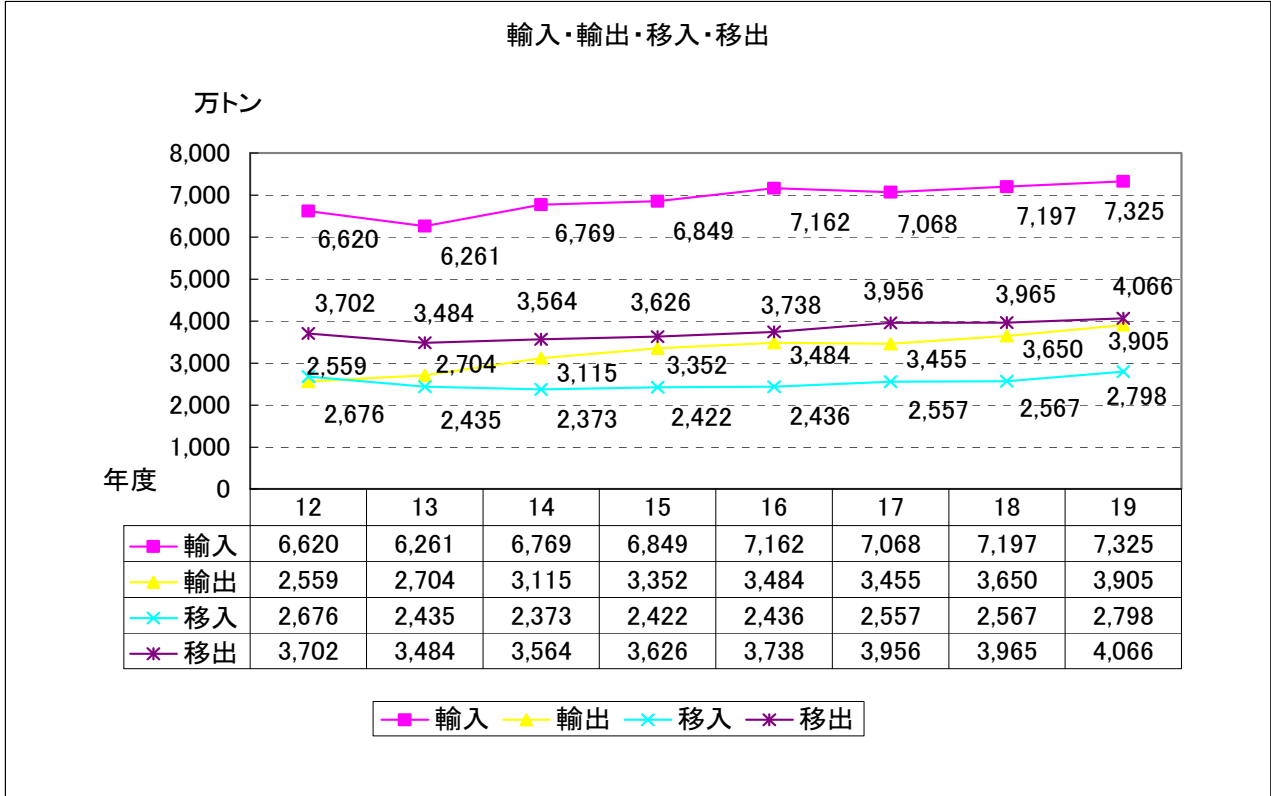




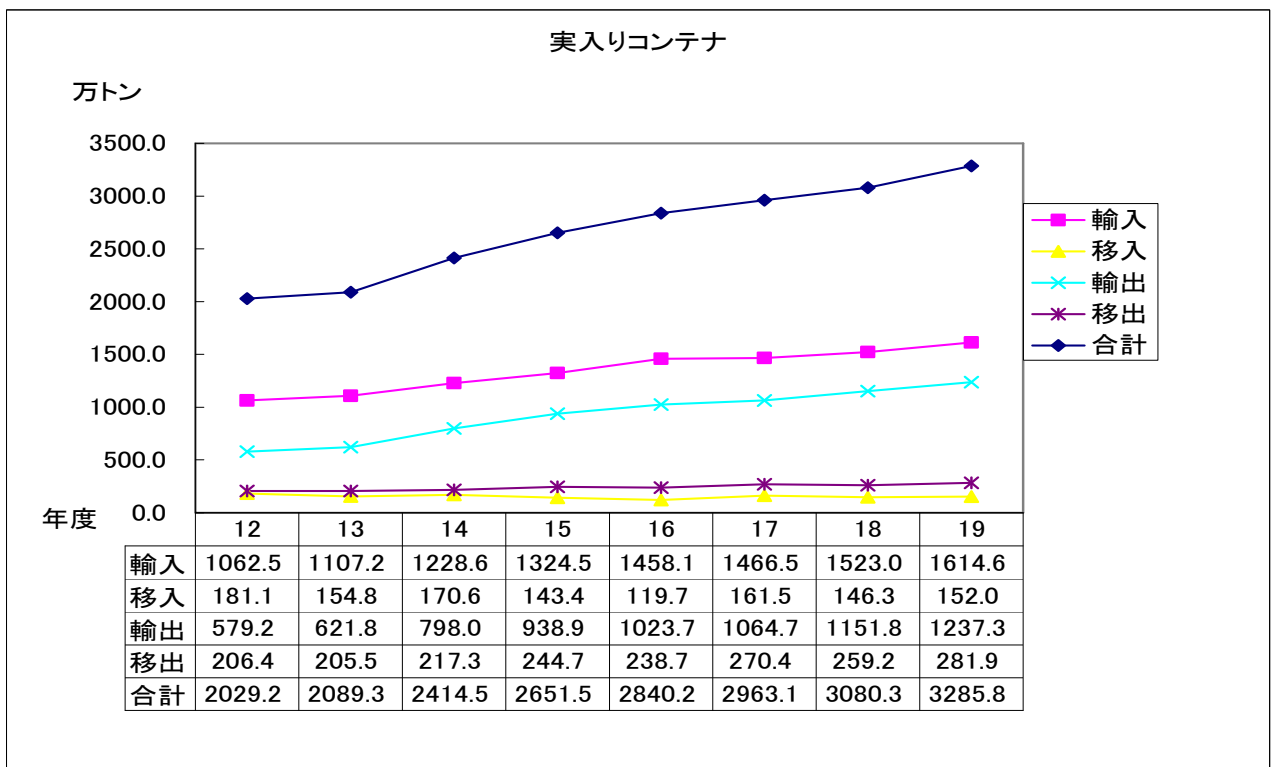
【参考資料】

○ 積卸し実績の推移

① 輸入・輸出・移入・移出別の積卸し実績の推移

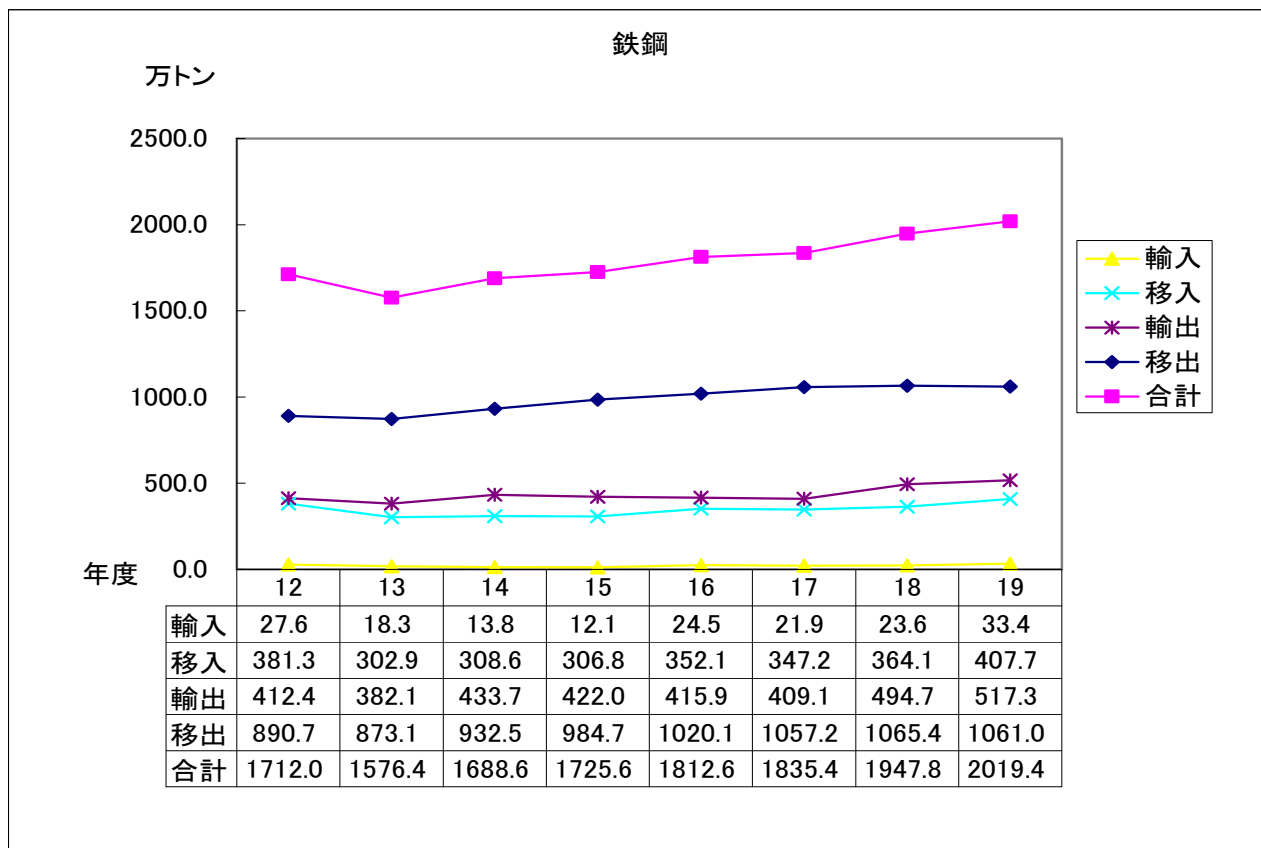


② 輸入・輸出・移入・移出別の積卸し実績の推移（実入りコンテナ）





③ 輸入・輸出・移入・移出別の積卸し実績の推移（鉄鋼）



④ 輸入・輸出・移入・移出別の積卸し実績の推移（自動車）

